

# 社会福祉法人天竜厚生会 実践発表会

社会福祉法人 天竜厚生会

〒431-3492 静岡県浜松市天竜区渡ヶ島 217-3

## 助成事業の概要

### 【目的】

地域住民を対象に社会福祉法人が実践している事業の発表を行う事で、地域の福祉に対する理解を含め、高齢者・障がい者・障がい児・外国人等が住み慣れた地域で長く一緒に暮らせる地域づくりを推進する事を目的とする。

### 【時期】

令和 6 年 1 月 28 日、浜松アクトシティ中ホールにて実施。

### 【内容】

社会全体が少子高齢化による人材不足にあえぐなか、医療介護分野で働くことを志す人材の減少も大きな課題となっている。併せて、昨今急速に外国人材採用の仕組みが整備された事で制度が複雑多岐化し、受け入れに苦慮している法人も多いと推察する。単に労働力の補填として受け入れるのではなく、彼らにとっての日本で働くことの意義を共有し、地域の住民として共に生きることについて考える機会とし、当会の取り組みの一部を紹介する。

## 事業の成果

当日は下記プログラムの通り実施した。

テーマ：多文化共生のこれまでとこれから

- (1) 外国人職員採用の取り組みと今後の展望（人事課）
- (2) 障がい相談における外国籍の方への支援の現状と課題（相談支援事業所）

(3) 外国につながる親子のまなざしと保育者の役割と期待（幼保連携型認定こども園）

(4) 外国人材の雇用・定着のために（特別養護老人ホーム）

(5) パネルディスカッション（施設職員）

今年度の「多文化共生」というテーマは、福祉分野以外からも非常に関心の高い内容であったことが事後アンケートより窺えた。背景として、「人材難から（福祉分野を含めた）社会全体が外国人材に期待する中で、人材定着のための取り組みに苦慮している事」や、「地域で暮らす外国人との共生社会の実現に向けた課題が山積している事」などがある事もアンケートから見受けられた。例として「全体を通して、福祉分野だけでなく、県内の製造業など人手不足で困っている事業者にも聞いてほしい」「単に労働力として見るのではなく地域住民として受け入れ共生していく事の必要性和難しさを感じた」といった反応をいただいた。

「多文化共生」「(外国) 人材の育成・支援」の分野での有識者を来賓としてお招きし、また各分野から関心を持って一般聴講に訪れた多くの皆様に当会（福祉現場）の取り組みや現状を伝えられた事、それに対するご意見や反応を得られた事は、広く地域の方々に福祉への関心を促す事に繋がったと感じている。

本事業を終えて主な成果としてあげられるのは下記の2つである。

- (1) 従来の発表会と比較して、外部一般・福祉分野外の関係者の方に多くご参加いただいた事で、業種を超えて広く福祉を知っていただけた事。

(2) 異なる分野による識者同士の繋がりでき、地域・共通課題に向けての連携が強化された事。

上記以外にも、コロナ禍で希薄になりつつあった地域住民や自治会等との繋がり回復や、法人職員の意識改革に繋がった事など、多くの成果を得られた。

## 成果の広報・公表

天竜厚生会ホームページ上で実施報告を掲載する予定である。また、当会の広報誌「機関誌あかまつ」上でも記事を掲載し、地域関係者をはじめ多くの方にお配りする事で、広く一般の方に成果を知っていただく広報の機会を整える。

## 今後の展開

今回の発表では、「多文化共生のこれまでとこれから」という社会全体の関心が高いテーマで、天竜厚生会で現在取り組んでいる活動の実践と今後の展望について発表した。

今回のテーマである「多文化共生」についてはこれまでの福祉を主題にした発表会のテーマとは一線を画すことから、従来の福祉分野関係者のみでなく、「行政」「教育」「外国人支援団体」等の専門機関から有識者を招いた。これは、法人の取り組みを知っていただくのと同時に、福祉分野の抱える課題を共有し助言をいただく事で相互に見識を広げ、今後の専門機関との連携強化につなげる事で、外国人を含めた地域共生社会を実現するための一助となる事を狙いとしていた。

当日は、例年より多くの地域一般の方が聴講に訪れ、アンケートからは「地域でも外国人を見かける事が多くなった。多くの苦勞を抱えながら生活している事を知り、同じ地域で暮らす住民として相互理解に努めていきたい」といった回答もいただいている。当法人を幅広い方に知って頂き、

地域に対して社会福祉法人の取り組みを発信し、信用を高めるとともに地域住民に対する福祉の啓発ができたものと感じた。今後も実践発表会を通じて社会の関心が高いテーマと福祉現場の課題の結びつきを取り上げ発表していく事で、社会福祉法人と地域との繋がりをより強固なものにし、更なる福祉の啓発に繋がられる事を示していきたい。